

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590300051 | | |
| 法人名 | 株式会社 おいでの里 | | |
| 事業所名 | グループホーム スローシテイ ピアノ | ユニット名 | ソナチネ |
| 所在地 | 宮崎県延岡市平原町1-854-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年2月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590300051&SCD=320&PCD=45 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成24年1月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月に一回の定例会を通じ、利用者が地域の中でその方らしく暮らせるよう、職員一同理念の共有を心掛けている。 | | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方が、季節ごとの花を施設周りの花壇に植えてくださっている。現在、利用者数名しか参加されていない為、参加人数を増やす計画をたてる。 | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 同市内の福祉大空の研修生を受け入れ、指導を行っている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、第2木曜日午後2時からと決め開催している。地域の防災活動に参加したり開催時に利用者の現状を伝え、質問等を受けている。 | | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村の担当者より提出物の適切な書き方や支援面での理解しがたいことを電話や直接出向き、指導を受けている。 | | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいる。 | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 室長を中心に、チームケアを学習し、職員の意識向上を目指す。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現時点では学ぶ機会を持っていない。今後、個々の必要性を感じるため学んでいきたい。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結には、納得いくまで説明した後、締結している。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 外部へは、運営委員会を通し意見を頂く機会を設けている。家族からの要望は随時対応している。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常時、意見は職員から室長へ上げてもらい、管理者へ意見が伝わるようになっている。又、毎月定例会を開き、意見交換をする事で、運営に反映している。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員は、全員正規雇用。職員が全員向上心を持って働ける環境整備に努力している。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修へは順番に参加できるように計画をたてている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流や勉強会はしたいと考えているが、出来ていない。今後は、同市内の施設と交流を図り、サービスの質の向上をさせていく取り組みを行いたい。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が困っていること、不安なこと、要望等の訴えがあると、本人が納得し安心できるような話をゆっくりと聞いている。交流をできる限りもち、利用者が気持ちを出しやすくできるよう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安、悩みを共有できるように支援している。面会時、随時要望があれば、相談を受けている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族が求めている支援を見極め、対応に努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 全ての事を職員がするのではなく、何事も利用者とともに行うよう心掛けている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族の関係の理解に努めている。また、職員と家族が日頃から交流をする事によって、より本人と家族の絆が深まるように支援している。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの理美容院に出かけたり、ホームに出張してもらえるよう働きかけている。又、関連施設に友人がいる場合、職員間で連携をとり、交流が途切れないよう支援している。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション活動を充実させ、利用者同士が楽しく自然に交流できるように努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談があれば支援していくよう努める。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員全員が一人ひとりの思いに関心を持ち、把握が困難であった場合は職員全員で話し合い、本人を理解するよう努める。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の面会時、本人の生活歴や暮らしの様子を伺い、これまでの暮らしができるように支援している。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎朝、朝礼、介護記録、バイタルチェックによる健康管理を行い、現状把握に努める。勤務交代時、申し送り記録で職員間の情報の交換を行っている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 意見の出しやすいBS法にて、本人、家族の求める介護について意見を出し合う。その意見を基に介護計画を作成し、支援しているを。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録にて一日の様子を記録し、センター方式（生活リズム）で一週間の記録をしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援を行えるようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の大学生ボランティアの協力により、祭りの実施や機能訓練などを行っている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、馴染みの関係、継続的な医療を受けられるよう支援している。24時間体制での連絡が取れるように、連絡網を作成している。 | | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職が日常の健康管理を行い、状態の変化を協力医へ連絡、相談している。緊急時の場合は、協力医の看護師へ24時間体制での連絡できる体制をとっている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡をとり、情報交換や相談に努めている。いつ退院しても良いように、柔軟に環境整備ができるように努めている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所での「できること・出来ないこと」を見極め、医療・介護がチームとして支援できるよう、今後検討、準備を進めたい。 | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生に備えての訓練は行っているが、実践力を身につける為の訓練を今後、定期的に行っていく。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 利用者が避難できる訓練を定期的に行っている。地域の人々の協力を得られるように働きかけていきたい。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーを損ねないような声掛けや対応をしている。その日の状態にも配慮しながら、その人に合った対応を心掛けている。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で、本人が自己決定できるよう選択してもらったり、職員が働きかけたりしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本理念の「ゆっくり」を念頭に入れ、本人のペースに合わせながら支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしいおしゃれができるよう、一緒に服を選ぶようにしている。理・美容は、外部へ協力依頼をし、支援している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 会話の中で好みの食べ物など聞いたりし、一緒に話しながら興味を持ってもらう。声掛けにより、食事作り、片付けを職員と一緒にやっている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日、食事・水分摂取量のチェックを行い、食欲低下のある利用者は、栄養バランスを考えた上で食べやすい物を提供し、水分を取りたがらない利用者は、ゼリー等を出し確保している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施している。出来るとこまで利用者に行ってもらい、出来ない場合は、職員が一部介助し、口腔内の清潔に努めている。また、義歯や入れ歯の洗浄も夜間行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録の確認をし、本人の排泄パターンを把握しながら、声掛け・誘導・介助を行っている。習慣化でき、自立に向けた支援を心掛けている。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄記録の確認をし、本人の排泄パターンを把握しながら、水分摂取等にも配慮し、運動も取り入れたり便秘の予防に取り組んでいる。又、便秘が続く場合、医師の指示の下、便秘薬の服用を行う場合もある。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | バイタルチェックやその日の体調をみながら、楽しんで入浴できるよう環境整備等を行い、その人に合った支援を行っている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者が休みたいときは居室で休んだり、その日の体調に応じて対応し、夜間は温度調節等にも配慮し、気持ちよく眠れるよう支援を行っている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医療連携により、薬の変更や留意事項は申し送りノートに記載し、職員間の周知徹底を行っている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみや食器洗い、食事作り等を手伝ってもらったりと、役割を持って過ごしてもらおうよう支援している。又、毎月活動予定を作成し、運動療法、回想療法等を行う中で、刺激や楽しみを持っていただけるような機会を提供している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望を把握し、なるべく希望にそえるよう、ご家族の協力を得ながら外出や外泊の機会を持ったりして、気持ちの安定を図っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | ソナチネ | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事務所で一時預りとして金庫に保管し、必要に応じて職員が購入したり、小額のお金を持って一緒に買い物に行き、本人の希望の物を必要な分だけ買われるよう、支援している。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話等のやりとりを行ったり、プライバシーにも配慮しながら支援を行っている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日中、ロールカーテンで光の調整を行い、夜間は間接照明を上手に利用している。温度の調節にも気をつけたりと、利用者が不快や混乱をまねかないよう工夫している。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル・椅子の他にソファもあり、気の合った利用者同士ゆっくり話しながら過ごせたり、テレビを持参している方は、好きなテレビを居室で観たりして、過ごしやすい環境作りをしている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分の馴染みのものや好みのものを持参し生活している。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部は、てすり配置やバリアフリーとなっている。タイプの違うトイレも配置され、分かりやすく工夫し、利用者が認識しやすく、自立した生活が出来るような環境作りを行っている。 | | | |